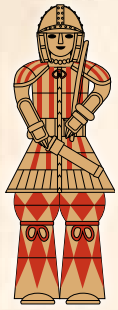


金井東裏遺跡

甲を着た古墳人だより

Vol. 1

平成 25 年 3 月 3 日（日）

公益財団法人
群馬県埋蔵文化財調査事業団

金井東裏遺跡（渋川市金井）は、国道353号金井バイパス（上信自動車道）の建設に伴って、平成 24 年９月から、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を行っています。

この調査で、同年 11 月下旬に６世紀初頭の榛名山二ツ岳の火山灰に埋もれた溝の中から、甲を着た状態の人骨や乳児の頭骨、成人と思われる下肢骨が相次いで発見されました。

甲を着た古墳人は、両膝を曲げた状態で前のめりに倒れた姿勢で、後頭部の骨は失われています。

甲は、小札と呼ばれる厚さ１㎜ほどの鉄板を綴った小札甲と見られ、草摺と呼ぶ甲の下の部分がずり上がったようになっています。甲を着た古墳人の西側からは、鉄鏃がまとまって出土したほか、甲や矛と見られる鉄製品も出土しています。乳児骨は頭部の一部が残っていたもので、生後数か月と判断されました。

古墳時代の遺跡で、火山灰の中から当時の人が発見されたことはこれまでに例がなく、まして甲を着た状態で発見されたのは全国でも初めてで、貴重な発見となりました。

発見された古墳人は、条件の整った中でより詳細な調査を行うため、遺跡から土ごと切り取り、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団で保管しています。

“甲を着た古墳人”発見時のようす

※これまでは、『甲着装人骨』と表現してきましたが、他に発見された人物も含めて、今回からは『古墳人』と表現することにしました。

■遺跡からの切り取り作業

甲を着た古墳人を傷つけないように保護材で幾重にも覆ったのち、細心の注意をはらいながら周囲を深く掘り下げ、発泡ウレタンで全体を包むように保護して切り出しました。切り出し作業は、平成24年の12月13日と14日の2日間かけて行われ、1.8ｔの重さの土の塊は無事に保存処理作業室へと運び込まれました。

■発泡ウレタンの除去作業

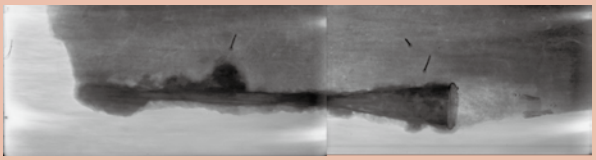
甲を着た古墳人の詳細調査に向けて、回りを保護していた発泡ウレタンを切り取りました。時間をかけて少しずつ削り、最後に古墳人を覆っていた発泡ウレタンと保護材を注意深く取り除きました。古墳人の無事を確認するまでは、緊張の連続する作業となりました。

■詳細調査

詳細調査は、人類学的な知識を必要とするため、九州大学大学院の田中良之教授を中心とするチームとともに進めました。その結果、発掘調査では確認できなかった両手足および両肩や骨盤なども明らかになってきました。

■矛（ほこ）の判定

甲を着た古墳人の近くから出土した棒状の鉄製品は、X線撮影の結果「矛」の可能性があることがわかりました。矛はソケット状になった部分に柄を差し込んだ槍のような武器ですが、このソケット状の部分には縁飾りが付けられていたこともわかってきました。



矛のＸ線写真

公益財団法人
群馬県埋蔵文化財調査事業団
〒377-8555 渋川市北橘町下箱田784-2
☎0279-52-2513 http://www.gunmaibun.org/